

「自分や子どもたちが 笑っていただける 未来のために」



商業男子
松本 修さん
(大台西)

まちを支えるあなたのチカラ

しばじえね

SHIBAYAMA
GENERATION #8

まつもと・おさむ
◎Profile
■年齢/37歳 ■職業/
自営業 (有)エムアール
サービス) ■趣味/
家族旅行、ゴルフ
■好きな言葉/得を周
積む ■夢/日本一
旅行

人々が結びつき、住みやすい町を目指して手を取り合う。「芝山を一つに」という願いを胸に、その架け橋でありたいと思う心は、町を支える大きなチカラ。

松本さんが芝山に住み始めてから11年になる。船橋市で生まれ、高校時代、7年間の自衛隊生活と、住む場所が変わってきた松本さんにとって、芝山は初めて腰を落ち着けた「地元」と呼べる場所だという。松本さんから見た芝山は、豊かな自然に囲まれ、気候も良く、災害にも強い恵まれた土地。住みやすい環境だが、基幹産業である農業の発展や、芝山鉄道に限らない公共交通の検討など、まだまだ課題は多く、町が幸せになるにはどうすればよいか、いつも考えていると語る。

その中でも特に、これからの町の発展に必要なと感じるのは、新しい住民が入ってきやすいまちづくり。元来芝山は、地域のつながりがとても強い。「その中に新しい住民が加わることで、もっと大きな輪になっていってほしいですね」。

◆今年も無事に終えることができた芝山はにわ祭。古代人に扮する中学生にとっては、大勢の人に注目される晴れ舞台。もちろん、祭の主役は古代人だけではありません。商工まつりや産業祭、その他のイベントも大盛況で、芝山人の底力を感じました。まさに町の一大イベントですね。ご協力いただいた皆様、お疲れさまでした。◆はにわ祭を節目に、次第に風も冷たくなり、冬の到来を実感。毎年のことですが、時が経つ早さに驚きます。今年も大きな変化のない一年でしたが、健康に過ごせたのは何よりだったと思います。もうすぐ迎える新しい一年も健康に過ごし、いろいろな場所で皆様とお会いできますように。(下)

◆本番前に仲間同士で言葉を掛け合う姿や、合唱の風景。芝山中学校の合唱祭を取材させていただきました。カメラのファインダーから覗くその世界に、思わず胸が熱くなりました。◆今年も大盛況のうちに終えた「はにわ祭」。広報担当として初めてのはにわ祭で、一日、古代人に密着取材をしました。特に印象に残っているのは、化粧をしたこの嬉しい笑顔。古代人の皆さん、そしてはにわ祭に携わった関係者の皆さん、大変お疲れさまでした。◆学生時代を振り返ると、思い浮かぶのは合唱祭や体育祭など、イベントの風景ばかり。楽しい・嬉しい・悲しい…。いろいろな感情を織り交せた貴重な経験は今の私の糧になっています。◆空気が乾燥してきました。風邪やインフルエンザには十分にお気を付け下さい。(上)

あとがき